

# 授かったものの有り難さ



くすのせこうさく  
すさき 須崎市長(高知県) 楠瀬耕作



土佐の宴会文化の一つ「可盃」

## 酒文化を楽しむ

土佐の高知は酒処、皿鉢料理を囲んで楽しい飲み方がたくさんあり文化になっています。

献杯・返杯、はし拳、菊の花、可盃など、夜が更けるにつれ男も女も「ペロペロの神様」に昇華していきます。私はこの土佐の宴会文化を駆使するのが得意です。地元のみならず、東京などの出張先やホストタウンの相手国であるチェコ共和国のプラハでも土佐流を貫き、共感とひんしゆくを買ってきました。高知の首長は結構な頻度で酒席があり、上手な首長はサラッと済まして帰られますが、私はほどの会も宴会終了まで居座り、その後2次会、3次会へと転戦します。

市長就任10年目を迎えますが、印象では30年分位の酒を飲んできた気がします。最近では「市長と飲んだら飲まされる」との評が立ち、職員を含め一緒に飲んでくれる人がめっきり減りました。「飲まされる」とは何事だ！飲んでいるのは自分の口だろ！と反省の色がないので、ますます友達は減っていくことでしょう。

コロナ禍でこの愛すべき土佐の宴会文化が休止しておりますが、毎日欠かさず少数あるいは一人で飲んでおります。そんな生活を送っておりますが、不思議と肝臓の値(γ-GTP)は標準値を保っており、職員から検査機関を買収しているのではないかと陰口をたたかれています。親からいただいた肝臓は強い方かも知れませんが、やはり人体はシステムで、高血圧や不整脈、記憶障害などの変調を来すことがあります。その変調を和らげるために心掛けていることがあります。それは体を動かすことです。水泳+筋トレは週2~3回、1回当たり水泳1.5km+1時間のストレッチと筋トレをやっています。水泳に行く時間がないときは軽いジョギング、公務のない休日の農作業などです。まあ、それらをやった後も必ず飲んでいますが…。

## 海洋を楽しむ

四国の地図を思い出してください。高知県と愛媛・徳島・香川の県境は四国山地です。あまり知られていませんが、西日本一高い山「石鎚山」が高知と愛媛の県境に、2番目に高い山「剣山」が高知と徳島の県境にそびえ立ち、その間を1000m級の連峰が屏風のように隔てています。平成4年に高知自動車道が四国山地を貫通するまでは、県庁所在地間の移動もほぼ半日を要し、園芸品はフェリー輸送に頼るなど交通



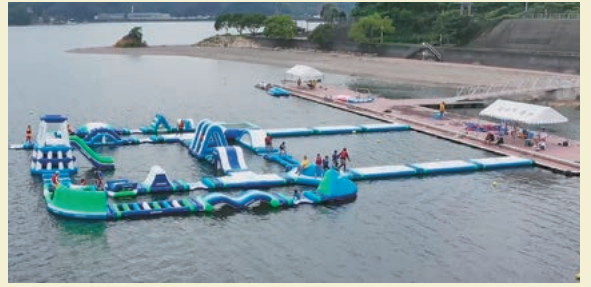
浦ノ内湾と横浪半島

の便が悪い、いわば陸の孤島状態でした。それが幸か不幸かガラバゴスの未開発の観光地、光の当たっていないおいしい食材、高知ならではの文化や人情につながり、これからのポテンシャルは高いものがあると思っております。その一つが須崎市にある浦ノ内湾です。本市の海岸線は典型的なリアス式で約110kmあります。その中で浦ノ内湾は横浪三里と言われ、外洋から約12km続く内海です。太平洋(外洋)と内海を横浪半島が遮り、半島の中をスカイラインが走ります。桜の時期には、遠くは四国山地を望み穏やかな内海と桜色のコントラスト、逆方向を見れば雄大な太平洋、まさに絶景です。



すさきオープンウォータースイミング大会の様子

1 kmの部に出場し無事完泳しましたが、ぜい肉のついた身体にウエットスーツがきつく、100 m位泳いだところで気持ち悪くなり、背中のファスナーを全開にし、やっとのことでゴールしました。ゴール後のインタ



夏場の海上アスレチックの様子

そんな自然環境を大勢の方々にも満喫してもらいたい：という思いの下、5年前より「須崎海洋スポーツパーク構想」を進めてきました。カヌー競技においては、1000 m×4レーン、500 m×9レーンを常設し、カヌー専用トレーニングルーム、レンタルカヌー艇も取りそろえ、チェコ共和国代表チームのキャンプ地として、また、全日本ナショナルチームや大学などのキャンプ地として評価をいただいております。夏場には海上アスレチックをオープンさせ、子どもたちと海の楽しさを共有しています。競技ではオリンピック種目でもあるオー

ブンウォータースイミング大会（マラソンスイミングとも言い自然の海を1 km〜10 km泳ぎタイムを争う競技）を2014年より開催し、国内トップの大会を目指しています。私も第1回大会の

ビュで「ウエットスーツがきつくウエットした」という低級なオヤジギャグを残しています。コロナもありますが、この自然環境をさらに生かすため、令和3年度は「トライアスロン須崎大会」(株)ロゴス社と提携したロゴスランドのオープン」に取り組みんでいきます。海釣りの中心地でもありますので、ぜひ一度お越しいただけたらと思います。

### 耕作を楽しむ

名前が耕作だけに、畑を耕し作物を作るのは天命だと思っています。そう思い始めたのは40歳の厄入りの頃からです。最初は見よう見まね、本やネットで知識を仕入れたことは、作物によっては同じ場所に毎年植えると連作障害が出るので菜園の年間計画が必要。作物成長のカギを握る土作りが大切。雑草や水の管理に気を配る。ウリ類の人工授粉は付けるべき花の場所があり、

そのためにツルの整枝が必要：などですが、作物を育てる奥深さは果てしなくて答えがなく、毎年1年生の気分です。特に露地栽培は、肝である土作りがうまくいっても、その年の気象状況（気温の高低、降雨量、台風などの異常気象）によって出来栄が大きく変わります。

また、作物の成長状況に応じて、間引き、整枝、追肥などを行い、天候状



スイカ畑で耕作を楽しむ筆者

況によって、防寒・日照対策などを行います。つまり露地栽培は、最善の努力（土作り）をしても自然の気分次第で努力が必ず報われるとは限らないし、二日酔いで気分の悪い日曜日でも、成長や天候に同じ作業しなければならず、相手をよく観察しペースを合わせする必要があります。収穫した野菜たちを「新鮮でおいしい」と食べてもらうのも耕作の醍醐味ですが、恥ずかしながら「今までの人生を切り開いてきたのは自分の才覚だ」と大きな錯覚をしていた私には、良い修行の場になっています。耕作が耕作してやっと人並みの人生観と交錯したというお粗末な一幕。今年も究極のスイカ作りを追求していきます。